Schrifttum

Hattori, S. and H. Inoue, 1959. Hepaticae of Tanigawa Mountain etc. Journ. Hattori Bot. Lab. **21**: 85–103. Kaalaas, B. 1898. Beiträge zur Lebermoosflora Norwegens. Skrift. Vidensk. Christiania 1898, I. Math.-nat. Klasse (**9**): 1–28. Mitten, W. 1861. Hepaticae Indiae Orientalis. Journ. Proc. Linn. Soc., Bot. **5**: 89–128. Nicholson, W.E. 1930 in H. Handel-Mazzetti, Symbol. Sinic. **5**: 1–60, Wien. Stephani, F. 1897. Hepaticae Japonicae. Bull. Herb. Boiss. **5**: 76–108. Stephani, F. 1898–1924. Species Hepaticarum 1–6, Genf.

* * * * *

多数の苔類の基準標本を検討した結果，異名におちるものや学名の変更を要するものがでてきたので，これらを一かつして報告した。この中で，日本産のものに関係するものは 11, 16, 19 の項目のもので，14, 15, 17, 18 はヒマラヤ～支那産のものに，12 は中米産，13 は南米産，20 はニュージランド附近，南米南部南大西洋の周南極の島並びに南アフリカ産のものである。 (井上浩記)

□ E.V. Watson: **The structure and life of bryophytes.** p. 1–192 with 20 figs. March, 1964. Hutchinson & Co., Ltd., 178–202, Great Portland Street, W I, London. 15s. 本書は大学院学生（植物学専攻）を対象として書かれたユニークな参考書である。従来の形式的な解説とは異り，各章に於いて重要な文献を豊富に紹介しつつ，トピックの形にまとめてある。例えば形態学の章では従来の知識を比較形態学的見地からまとめてある。著者は序言で“蘚苔類の形態学的知識と，多方面にわたる蘚苔類関係の分野の知見との間の間隙を埋め，従来の形態学的知識を新しい視野から綜合的に把握し，更にそこから問題点を指摘して読者の興味を喚起したい”と述べているが，この点著者は充分な成功を収めたと言ってよい。全篇 11 章にわけて，分類，苔類の葉状体と茎葉体の各構造，胞子体，蘚苔類の配偶体と胞子体の各構造，無性及び有性生殖，発生，解剖，生理，生態，分布，化石，細胞遺伝，種分化 (speciation) 及び結論（主として系統，類縁に関する諸説の批判）とし，最後に索引をつける。 (服部新佐)

□ H.A. Miller, H.O. Whittier & C.E.B. Bonner: **Bryoflora of the Atolls of Micronesia.** Beihefte z. Nova Hedwigia, Heft 11, p. 1–89, tab. 1–2, pl. 1–31. 1963. DM40.– J. Cramer, 694, Weinheim (Germany). 標題の如くミクロネシアの環礁のコケのフロラの調査であって，1960 年オハイオ州のマイアミ大学の調査の際に得られた資料が主体となっている。従来蘚類 22 種，苔類 12 種が記録されていたが，この報告では蘚類 16 属 37 種，苔類 12 属 25 種がすべて key，記載，図を付けて説明してある。上記の各種を植物地理学的に見て 7 elements に分け，結論としてミクロネシアの環礁のコケ・フロラの成立には右 elements の分布地域，就中 Indomalaya から時代を異にする種々の侵入経路が考えられると述べてある。 (服部新佐)